

実施計画事業番号	計画細目	計画実現のための取組	令和6年度の実績	達成状況
取組1	プラスチック類の発生・排出抑制の推進，食品ロスの削減	量り売り店等の紹介	食品ロス及びプラスチックなどの過剰包装の削減に関する環境配慮行動を促すため，市民団体から提供されたリストを踏まえた量り売り実施店舗3店を，広報誌「ザ・リサイクル第98号（令和7年3月20日号）」で紹介したほか，実施店舗と調整・確認のうえ，市HP上で実施店舗一覧を掲載・広報し，利用促進を図った。	A：達成できた
取組2	脱プラスチックの促進，食品ロスの削減	脱プラスチック，食品ロスに取り組む事業者のPR	・セブン&アイホールディングスの取組である「グリーンチャレンジ」を中心に，イトーヨーカドー国領店が実施する取組について調査し，広報誌「ザ・リサイクル97号（令和6年11月20日号）」で掲載 ・取組1に関連し，市内の量り売り協力店の調査及び，3店舗についてはインタビューを実施後，広報誌「ザ・リサイクル98号（令和7年3月20日号）」への掲載及び市HPに掲載 ・アメリカンスクール（ペットボトルの学内利用の抑制，生ごみのたい肥化の取組，クリーンセンターの見学等），電気通信大学（家具・機械・部品のリユース，フードバンク）へインタビューを実施。令和7年度に掲載を予定	A：達成できた
取組3	脱プラスチックの促進	プラスチックの拠点回収品目の追加検討	・新たな項目として，使用済みシャンプー等衛生用品のボトル回収を，公民館及び出張所で試行開始 ・コンタクトレンズ空ケース，インクカートリッジ回収スポットを増設 ・全国清涼飲料水協会等と連携し，本庁舎にペットボトルキャップ回収ボックスを設置。令和8年度以降，福祉団体と連携し，拠点の増設及び回収を予定 ・新たにテプラカートリッジの回収に着目し，令和7年度中に開始するため，事業者との調整など，実施に向けた準備を進めた。	A：達成できた
取組4	リユース活動に関する情報提供・支援	インターネットを活用したリユース品の販売検討	・連携協定を結ぶ株式会社ジモティーのインターネットサービスを活用した粗大再生品の展示販売に向けた自治体の取組みの調査を実施。 ・近隣自治体の事例を踏まえ，市民の利便性向上，啓発機会の拡充を目的に，幅広い世代に向けた情報発信として令和7年度に試行実施を計画した。 ・事業者との連携による新たな取組として，使用済みテプラカートリッジのリユース・再資源化に向けた拠点回収について準備を進めた。令和7年度中に公共施設分を対象に開始し，一般向けの回収拠点設置と実施を予定している。	A：達成できた
取組5	プラスチック類の資源化	企業との連携によるペットボトルの水平リサイクルの取組に向けた検討	コンビニ事業者との連携による，ペットボトルの店頭回収及び水平リサイクル実施スキームの構築について，課題としていた，「圧縮梱包機」を新たに設置した収集運搬・処理事業者を見つけ，回収～圧縮梱包及び売り払いのスキームについて，実施の検討を依頼した。結果，効率的な運用は見込めず，新たな課題として，市内で実施する場合は収集運搬費用負担が必須となることが明らかとなったことから，引き続き，実施に向けて検討していく。	B：ほぼ達成できた
取組6	集団回収，拠点回収の推進	リサイクル協力店の拡充/制度の見直し	・リサイクルセンターの建替え工事にあわせ，特にプラスチックトレイ及びペットボトルの店頭回収を促すため，市及びふじみ衛生組合の広報媒体を活用し，リサイクル協力店制度に基づく回収実施店舗を紹介し，市民に活用を促した。 ・一方で，店頭回収（リサイクル協力店制度）の促進によるリサイクルの啓発については，開始当時から状況が変化しており，一般的に普及していることから，更なる促進については内容の変更や広報の方法について検討が求められる。 ・令和7年度中に市内の店頭回収の実施状況及び品目の整理を行うとともに，制度の方向性について検討を進めていく。	C：達成が不十分であった
取組7	枝・草・葉や生ごみの資源化検討	せん定枝の資源化推進	・せん定枝車によるチップ化事業については，継続実施する一方で，マンションの増加などから，リピーターの申し込みが顕著になり，資源化量も低調である。また，年間40t程度の資源化量に対し，多額の処理費用となっていることなど，事業の公平性について，課題と捉えている。 ・現在のチップカーのリース期間が令和8年度で終了することを踏まえ，今後の枝草葉などの資源化事業について，今後チップカーのリース期間終了を見据え，令和7年度以降に検討を進める。	B：ほぼ達成できた
取組8	枝・草・葉や生ごみの資源化検討	生ごみ資源化モデル事業の実施	・令和6年5月から，廃棄物減量及び再利用促進審議会委員及び促進員約20世帯に参加していただき，生ごみの分別収集・資源化をモデル的に実施。延べ44回実施。戸別収集実施後，八王子バイオマス・エコセンターに搬入するもの。 ・参加者からは「使用するごみ袋が小さいものでよかった」「意義のある事業なので継続してほしい」など，好評いただいた。 ・実施の結果，全1,360kg，1回あたり31kg（約1.5kg/世帯）の排出量を確認し，1kgあたり670円余の処理費が必要となったなど，各種データを収集した。	A：達成できた

実施計画事業番号	計画細目	計画実現のための取組	令和6年度 of 取組実績	達成状況
取組9	分別ルールの周知徹底	分別啓発用動画の作製	・昨年度に引き続き、吉本興業株式会社等と調整を重ね、幅広い世代を対象とし、「電子レンジの解体」及び「新聞紙回収」の2つをテーマにストーリーを構成 ・古紙が多く排出される、令和7年1月15日（水）に、クリーンセンターにて撮影。当日はお笑い芸人「さんさんず」の協力のもと、収録を実施。2部構成で動画を作成 ・3月19日から、下旬にかけて、順次公開。今後、動画の配信を活用し、クリーンセンターの紹介や事業について、出前講座やイベント等を活用し、周知を図る。なお、令和7年5月に、保護者向け連絡アプリ「すぐーる」に配信したほか、クリーンセンターでのイベントでも活用を予定	A：達成できた
取組10	その他適正排出の維持	小型充電式電池の適正回収の推進	・令和3年度から実施している拠点回収（全4か所）に加え、小型充電式電池の行政収集（有害ごみ）の可能性について検討を開始するため、ふじみ衛生組合と協議を実施 ・拠点回収での排出量は350kg弱であることから、相当量を回収したとした場合、選別ラインへ大きな影響は見込まれず、実施は可能との判断であった。一方、受け入れ先であるリサイクルセンターの建替え期間中は、スペースが限られることから、大型の対象物（電動自転車のバッテリー等）については、積極的な広報を控えることとなった。なお、拠点回収については継続実施を決定 ・令和7年度4月から開始することとし、令和7年度版リサイクルカレンダーにその旨を掲載した。その他、デジタルサイネージや広報誌を活用し、事前周知を図った。	A：達成できた
取組11	災害廃棄物処理計画の策定等	災害廃棄物処理計画の周知	・市報、ホームページ、ごみ対策課広報誌等様々な媒体や、出前講座、公的な防災訓練等で計画の周知を図った。 ・災害発生時のごみの捨て方について、避難生活で発生する一般ごみと、災害により発生する携帯トイレごみなどの分別排出について、広報誌やホームページのほか、リーフレットを作成し全戸配布することで周知を図った。 ・市の防災訓練や地域の防災訓練への参加、出前講座など市民と直接説明する機会を通じ、災害廃棄物処理についての周知啓発を図った。	B：ほぼ達成できた
取組12	市民・市民団体等との協働	共催イベントの開催	・（特非）東京・都多摩リサイクル市民連邦・TAMAー3Rフォーラム2024実行委員会が実施するふじみ衛生組合での親子参加型イベントの開催に併せ、クリーンセンターを活用した体験イベントの共催を提案し、8月9日、19日の両日に実施した。施設見学のほか、電子レンジの解体や銅線の巻取りを体験したほか、パッカー車の乗車体験やフォトフレームの作成を実施。延約30人の親子が参加 ・イトーヨーカドー国領店が実施する、ごみ減量・食品ロス削減月間（10月）のイベントと連携し、市が実施するごみ減量キャンペーンの取組の一つとして、10月26日、ワークショップや、リ	A：達成できた
取組13	広報媒体の充実	調布ごみナビの試験運用（市内全域）の実施及び機能の充実	・電気通信大学及びBorzo AI社との産学官連携により開発した調布ごみナビを、令和6年4月から、市内3,000世帯を対象に試験運用を開始。その後、支障なく運用できたことを確認し、7月から市内全域に試験運用エリアを拡充 ・調布ごみナビの取組が、Tokyo区市町村DXaward2024にて、AIを活用した環境への取組、多言語への対応、他自治体への波及性などを評価され、行政サービス部門・大賞を受賞 ・調布ごみナビの更なる機能拡充を図るため、東京都環境政策加速化事業補助金を申請し、交付決定を受けた。令和7～8年度にかけて、生成AIを用いた「画像による組成分析機能」「AI自動電話応答機能」の開発に着手する。	A：達成できた
取組14	広報媒体の充実	ごみリサイクルカレンダーの内容の充実	・分別収集・リサイクル、災害廃棄物の処理等に係る情報案内の必要性の高まりを受け、従来の24ページから28ページ（4ページ増）へ見直すこととした。 ・追加した4Pは「有害ごみ・ペットボトルの内容（各0.5P）追加」，「粗大ごみ料金一覧」，「調布ごみナビ」，「災害廃棄物処理」の4項目 ・当初予定のとおり、作成後、2月上旬に配布を完了。その後、市民生活に影響が多い、「小型充電式電池の分別収集開始」及び「災害時のごみの出し方」については、その他媒体の活用により、年度末に向け周知を図った。	A：達成できた
取組15	広報媒体の充実	電子媒体を活用した広報の推進（児童・保護者用タブレット、ごみナビ）	・ザ・リサイクルジュニア第5号（令和7年度版）について、児童が持つタブレットの活用が可能となった。配信時期は、環境月間である6月とし、同月に開催するエコフェスタの開催案内も掲載した。併せて、小中学生の保護者向けアプリ・「すぐーる」による配信も実施することで、周知の強化を図る。 ・調布ごみナビを活用し、アンケートの実施、イベント・収集に関する情報発信を実施。新たに作成したクリーンセンター紹介動画についても、令和7年5月を目途に、同アプリから配信を予定	A：達成できた

実施計画事業番号	計画細目	計画実現のための取組	令和6年度の取組実績	達成状況
取組16	教育機関との連携・ごみ減量・リサイクル啓発作品の募集実	リサッチョ・新キャラクターの活用推進	・新たに作成したごみ減量・リサイクルキャラクターのネーミングについて，出前講座に参加した園やイベントを活用した投票形式により，「エコッチョ」命名。ザ・リサイクル第96号（令和6年7月20日発行）やホームページ，出前講座にてエコッチョを公表開始。 ・調布ごみナビの紹介に関しては，同時期に誕生したエコッチョをメインで活用していくこととした。 ・ごみ減量啓発作品（ポスター）募集要項にて，キャラクターの活用を促す。両キャラクターのイベント用パネルの作成を検討	A：達成できた

○「達成状況」の評価指標

A: 達成できた

(80%～100%)

B: ほぼ達成できた

(50～79%)

C: 達成が不十分であった

(20～49%)

D: 達成できなかった

(0～19%)